

生かされてる命と繋がる心の喜び

前田 光治

(熊本県 全盲難聴)

私は56歳の全盲難聴です。

目は網膜色素変性症で、昭和63年に、右目を失明し、平成7年に、左目も失明して全盲となり、耳は感音性難聴で、目の障がいの後を追うようにして右耳の難聴がおこり、平成10年に、左耳の難聴が進行して現在、両耳に補聴器をして、私の左耳の近くで話をしてくれると、音声による会話可能ですが、聴力は年々落ちており、将来全く聞こえなくなるのでは？と不安な日々を過ごしています。私の姉が先天性の聴覚障がい者ということで私の聴覚は遺伝でした。「遺伝？」に疑問を持った私は、他の病院を受診しましたが、同じ答えを聞くことになり、「もしかすると、あの時の交通事故が引き金になったのではないだろうか？」というのは、その事故による奇妙な体験をしている……昭和62年5月当時、父はガンで通院していました。私は結婚して2年を迎え、仕事が忙しく、なかなかお見舞いに行けずにいたので、「たまにはお見舞いにでも行くか」と自転車に乗って病院へと向かっていた。途中、下り坂に入ったところで突然、車が私の左側を直撃した。一瞬の出来事で私は、「あーっ！」と、追突された記憶はあるが、不思議なことに、その瞬間から私の体は分離したかのように、ひゅーっと宙に浮いて、

オルゴールの音色が流れて……辺りを見渡すと、雲の中に入り込んだか？と思うほど、真っ白な空間をなにかに？導かれるようにしてどこへ向かってるのかわからない中……今までに味わったことのない、幸福感に満たされていた。その時、人の呼びかけで私は、救急車の中で意識を取り戻し……私は夢でも見ていたのだろうか？またそれが、何を意味するのか？未だに、謎？として残っている。

不幸中の幸いで手足の怪我と、頭部5針の縫合(ほうごう)で救われるという、「生かされてる命」を感じていた。事故から1年後、父は借金を残してこの世を他界し、私は目と耳の障害が起こり、勤めていた会社を退職。そしてこんな私の将来を悲観してか、妻から1枚の紙を渡され、離婚……。 「何故？僕がこんなめにあうんだ」と、いくら胸中で呟いても虚しさだけが残った……それでも何とかしなければと、「この世は喜びも悲しみも全て修行の世界なんだ」と、自分に言い聞かせて盲学校へ行くことにした。

授業中の先生の声とか周囲の声が聴き取りづらいこともあって大変な思いをしましたが、何とか平成7年の国家試験に合格しました。しかし、皮肉なことに、それと同時に、左目も失明してしまうとは……卒業後は、治療院や特別養護老人ホームと勤務していく中でやっと、第2の人生を送れるはずだった。

左耳の難聴が進行していることに気づかず、患者さん

の言っていることが聴き取りにくくなっており、呼ばれても返事をしていないなど、迷惑をかけることが多くなっていた。また、友人との会話でも、私から少し離れたただけで、「……？」と聞こえておらず、何度も聞き返すと、怒鳴るような大声になってイライラしてるのがわかり、私も聞き取れないことに苛立ち、お互いが感情的になって時には喧嘩になったこともあった。

一人暮らしをしている私にとって、「見えない・聴き取りにくい」は、情報が限られ、また誰とも「つながり」の無かった私の心は暗闇の宇宙空間に一人いるようなものであった。こんなときに、辛かった過去までもが甦ってきた……。

私が幼少だったころ、祖父母は、お風呂屋を経営していましたが、祖父が他界して多額の遺産が父の懐に入ると、連日のように、ギャンブルに、酒にと、人格を変えてしまい、酒癖が悪く、飲んででは暴れるの繰り返しで母は傷が絶えず、幼少だった私ではどうすることも助けることもできず、私の体はあざだらけになっていた……。

こんな過去が思い起こされ、数々の「試練」に、疲れ果て「この先、どうなるんだろうか？」と、不安ばかりが心に降り積もって、人生さえも絶望していた。部屋の整理をしていたら1通の点字用紙を発見し、それが私を救ってくれるきっかけとなった。全国盲ろう者協会〔以下、協会〕から送られてきた、「盲ろう者実態調査アンケート」の案内で4年前のものでしたが、私は例え、僅か

な情報でもいいからと、協会への登録と、盲ろう者情報誌、『コミュニカ』の交付をお願いしました。そして協会より、情報提供していただいた、「熊本盲ろう者夢の会」の事務局長さんと、お話をする中で親身に私の話を聞いてくださり、信頼できる人だと確信した私は入会を決意し、いつの間にか気持ちが軽くなっていた。「つながる心の喜び」を感じながら人の優しさに触れ、生きていて良かったと思った。

また、『コミュニカ』を拝読していく中でも、盲ろう者の方々の体験文では、同じ障がい者として、その心の葛藤や生き様は共通のところもあって、他人事とは思えず、自分のことのように思えて涙がこぼれた。私よりも重い障がいを背負いながらも人生を楽しみ、前向きに生きておられる様子には、深い感動と、力強い勇気を与えてくれました。

『コミュニカ』を通じて、様々な情報が得られ、共有できたことで暗闇だった私の心の空間に、ひとつまたひとつと、星が生まれ、いつかきっと、満天の星となって輝いているに違いない……。私は今のこの気持ちを大切に心に刻み、これから色んなことにチャレンジして生き甲斐となる楽しみを見つけたいと思います。